

マイウェイ

No.107
2018



明治の邸宅

大磯の別荘建築を見る

監修・文・山田明宏 大倉祥子 写真・内山雅彦

鈴虫のさすの音は相模灘 正岡子規

公益財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成30年9月発行 ● 発行人 大矢泰好 ● 編集人 田村正志 ● 発行 公益財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市区みなとみらい3-1-1 ● 045-225-2171 (直通) 株式会社 神奈川新聞社 株式会社 DNA



表紙の写真: 方形屋根が美しい大磯邸。
上の写真: 大磯町の邸宅街にほど近い照ヶ崎海岸は「大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地」として神奈川県天然記念物に指定されています。

明治の邸宅

大磯の別荘建築を見る

監修・文 山口明宏 大倉祥子



明治時代の貴婦人がモダンな建物の前でポーズ。実は明治時代を体験するイベント・湘南邸園文化祭のPR用写真です。Photo.koji SAWADA

「日本の近代は大磯から始まった」と言っても、過言ではありません。そのころの大磯町の住民を見てみると、政治家では初代内閣総理大臣の伊藤博文をはじめ、山縣有朋、大隈重信、西園寺公望、寺内正毅、原敬、加藤高明、吉田茂まで、実に8人もの総理大臣が住んだ町なのです。

財界のトップもこぞって大磯に別荘を建て、三井、三菱、安田、浅野、赤星、高田商会など当時の

名だたる財界人が集まったため、「町内会で日本を動かせる」とまで言われたそうです。一説には、この頃の大磯の地価は銀座より高かったとも聞きます。

これだけ上流階級の人々が集まると、舶来品や高級な食材もここに集まり、最先端のファッションもここから流行り、現に日本初の海水浴場もここ大磯に誕生しました。建築物でいえば、JR大磯駅前に今も残る旧木下

家別邸（現レストラン大磯迎賓館）などは現存する日本最古の2×4工法の住宅なのです。

その他、明治・大正・昭和初期の別荘や邸宅も少なからず現存しますが、そのほとんどが個人

または法人の持ち物で、当然ながら公開はされていません。しかし今回、明治150年にあや

かって、明治時代から残る邸宅のひとつである「大隈重信別邸」

とその隣の「陸奥宗光別邸」、さらに「安田善次郎別邸」を取材できることになりました。すべて普段は非公開ですので、建築士

である私たちも興味津々です。

邸宅揃いの大磯には自然と腕のいい職人が集まり、中には施主の希望よりも自身の美意識を優先させるといふ魅力的な棟梁もいたと聞きます。

では一緒に、かの時代の施主や職人のこだわりを見に出かけましょう。

山口明宏（級建築士・県立産業技術短大講師

大磯まちづくり会議委員・大磯町在住

大倉祥子（級建築士・大磯町観光協会会長

大磯まちづくり会議委員・大磯町在住

取材協力）国土交通省公園緑地・景観課、大磯まちづくり会議、公益社団法人大磯町観光協会

伊藤博文邸 大磯「滄浪閣」
伊藤博文は、白砂青松（はくしゃせいしょう）の大磯を気に入り、小田原の別荘「滄浪閣」を大磯に移し、さらに明治30年（1897年）には大磯に住民票も移し正式に大磯町民になりました。同時に滄浪閣も別荘から本邸となったのです。写真提供：大磯町郷土資料館



ジョサイア・コンドル 英国人建築家。「お雇い外国人」として鹿鳴館などの建築物を手がけ、「日本の近代建築の祖」と言われています。彼自身も、妻の前波くめが吉田健三（吉田茂の養父）から土地を購入し大磯に別荘を構えました。多くの財界人との交流の中から、三井倶楽部や三菱一号館・二号館、高田商会本店など設計の話が大磯の町の中で進んでいたようです。コンドルの一番弟子の辰野金吾は東京駅を設計し、同じく片山東熊（かたやまとくま）は赤坂離宮（旧東宮御所）を、そして曾禰達蔵（そねたつぞう）は今も大磯に現存する池田成彬邸（旧西園寺公望邸）を設計しています。写真は、東京大学工学部校舎の前に建つ「コンドル先生」の像。



大隈重信別邸

非公開

〔大隈重信〕明治時代に総理を2度経験した政治家。早稲田大学を創立した初代総長。宴会好きの明朗な気性で「百ワット」とのあだ名もあります。
 ■大隈重信別邸 大磯町東小磯2-8-5 居室部分はほぼ明治時代のまま保存されている貴重な建物です。
 ■取材協力：古河電気工業株式会社

大磯の別荘はひっそりと

国道1号線の松並木の海側、小高い砂丘の上には高い塀が続き敷地の中を伺うことはできません。入り口の門を潜り木立の中を南西に進むと、車寄せ

のある西向きの玄関にたどり着きます。現存する建物は木造平屋で、多くの建物が倒壊した関東大震災にも耐え、増改築はあるものの、庭に面した和

室部分は明治期の間取りがそのまま残されています。通りから見えないためか、頻繁に出入りする御用聞き以外、大磯町民には馴染みが薄い、大隈邸もそんな別荘の一つです。

玄関は隣の鍋島邸を向いている

この別荘からは、当時の人間模様を見ることはできません。

たとえば玄関は、家相的には良くはない西を向いています。大隈家は江戸時代には佐賀藩の藩士であり、

玄関は西隣の佐賀藩主鍋島邸に向いているのです。お殿様に横顔を見せるような真似はできなかったのでしょうか。

しかし鍋島邸のさらに先には、伊藤博文が本邸として滄浪

閣を構えていました。大隈と伊藤はさまざまな政治上の軋轢がありましたが、そんな相手と近すぎたためか、この屋敷の所有者は、明治34年には現古河グループの創業者である古河市兵衛に変わっています。



木々の緑と空の青が美しく映える庭が、海に向かって広がります(神代の間からの眺め)。



玄関を入ると応接間。モダンなソファセットが迎えます。



樺の一枚板で張られた廊下。

富士の間は社交の間

一番の趣味が「来客のもてなし」だった大隈侯は大広間「富士の間」でよく宴会を開きました。宴会に呼ばれた芸者さんの控え室に使われた和室が廊下を隔てた北側にあります。

この大広間から眺める庭は美しく、純和風庭園ではなく広々とした芝生に木々が配置されています。当時も木立の向こうの海岸から潮騒の音が聞こえたことでしょう。座敷をさらにワイドに見せる広縁は、明治の土地家屋台帳と比べると、現在の方が広くなっており、増築した痕跡が見られます。

半化石化した神代杉をふんだんに

建物東寄りの方形屋根の棟には、貴重な神代杉をふんだんに使った「神代の間」があります。広縁のガラス戸にはベルギーから伝承された手吹き円筒法による手づくりの板ガラスが使われ、大小のガラスを組み合わせた華麗な意匠となっています。

廊下には、樺の一枚板が趣味良く張られています。伊豆石で造られた円筒形の浴槽には、山並み形の模様を自然石が使われ、湯を張るとあたかも湯船に富士山が浮かぶかのように見えるという趣向になっっているそうです。



①書斎だったという神代の間。②戸板にも神代杉が使われています。神代杉とは、数百年以上土中に埋もれ、腐らずに半ば化石化した貴重な木材で木材で、淡い色と木目が魅力です。③なぜ天井に足跡が? 管理されている方によると、職人の遊び心で、建てた際にわざと足の脂を付け、それが100年以上を経て浮いてきたのではとのことですが、真相は不明です。④伊豆石で円筒形に造られた浴槽。



①大勢の来客をもてなした「富士の間」。富士の間が16畳、続きの間が10畳、さらに広縁が囲み、合計30畳以上もの大広間になります。②百日紅の床柱。③鴨居の釘隠しは雁ではうか。④大隈邸は楠に囲まれています。楠は根を広く強く張る特性があり、関東大震災で近隣の屋敷が被害を受けるなか大隈邸が残ったのは、楠のおかげではないかと言われています。

散策MAP

JR大磯駅から、邸宅が多くあったエリアへのイラストマップです。ブルーの点線が、大磯町観光協会がオススメしている「明治の元勲コース」約3km（コース周辺の邸宅の名称はだまかな位置を示し、多くは公開されていません。建物が現存しないものもあります）。歩きでも、駅前にある観光案内所のレンタサイクルでも楽しめるコースです。また明治時代から営業している名店も掲載しました。主に画面右側の、商店が多いエリアになります。各店舗・施設の営業時間、休館日等はご自身でご確認ください。



明治記念大磯邸園 本誌で取材した大隈邸、陸奥邸のほか、伊藤邸、池田邸（西園寺邸跡）を含む区域が、「明治150年」関連施策の一環で「明治記念大磯邸園」として整備されます。平成30（2018）年秋には、一部の区域が公開される予定です。



江戸時代の東海道の様子を偲ばせる松並木。



旧島崎藤村邸
藤村の終の棲家。入場無料。
●東小磯88-9
☎0463-61-4100



妙大寺 松本順の墓
日本初大磯海水浴場の開祖



伊藤博文邸（滄浪閣）
鍋島直大邸跡



大隈重信邸 P4
明治記念大磯邸園エリア



陸奥宗光邸 P10
山縣有朋邸跡



国道と海岸の間に、長い堀に挟まれて真っ直ぐに海に向かう小径が何本があります。



昔の別荘街の間を通る路地。石垣や生け垣に囲まれて、いかにもお屋敷町らしい雰囲気。



鳴立庵
300年以上続く俳諧道場。有料で拝観可能。●大磯1289
☎0463-61-6926



大磯町観光案内所
駅を出て左手すぐ。無料の地図やレンタサイクルが便利です。
●大磯878-1
☎0463-61-3300



大磯迎賓館
大正元年に建築された洋館。現在はイタリアンレストラン。
●大磯1007
☎050-3385-0013



安田善次郎邸 P14



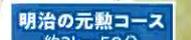
相模湾と大島の展望
高田公園



大磯町観光案内所



大磯迎賓館



明治の元勲コース
約3km 50分



松月



澤田美喜記念館



いづ常



岩崎弥之助邸跡



大内館



新件



井上蒲鉾店



鳴立庵



大磯町役場



アオバトの集団飛来地



アオバト 5月~10月



照ヶ崎



米 戸塚正商店
明治41年創業。五ツ星お米マイスターの店。
●西小磯17
☎0120-61-0344



井上蒲鉾店
明治11年創業からの手作り製法にこだわり。
●大磯1306
☎0463-61-0131



御菓子司新件 しんきね
明治24年創業の和菓子店。西行饅頭などが人気。●大磯1107
☎0463-61-0461



蒲焼 國よし
享和3年に創業したうなぎ料理の老舗。
●大磯1085
☎0463-61-0423

明治からの名店



料亭 松月
伊藤博文公の料理長が明治36年に創業した料亭。●大磯871
☎0463-61-0037



大磯のうまいものいづ常
明治初頭に創業した邸宅御用達の食料品店。
●大磯1130
☎0463-61-0065



大磯市&さかなの朝市
毎月第3日曜日（県下最大の野外市）
夕彩のお宿大内館
明治31年創業。避暑客や文人墨客御用達の宿。●大磯1083
☎0463-61-0033

陸奥宗光別邸

非公開

（陸奥宗光）明治期の政治家。不平等条約を改正し、日清戦争を外交面で支えるも、激務により結核が再発し、大磯の別邸で療養しました。■陸奥宗光別邸 大磯町東小磯285 この別荘で外交回想録『蹇蹇録（けんけんろく）』を記したためと言われています。■取材協力：古河電気工業株式会社

建物の名前は「聴漁荘」

玄関の「聴漁荘」との扁額は、大徳寺派第八代管長太田晦巖老師の撰名と揮毫によるものです。海岸の丘に建ち、地元の漁師の声が聞こえることが由来とも、転じて政治家として国民のさまざまな声を聞くべしという意味だとも言われますが、真意はわかりません。

陸奥宗光伯が大磯に別荘地を取得したのは明治27（1894）年で、結核



扁額が掲げられ堂々とした玄関。



複雑な文様が美しい屋久杉の棚。木材としても腐りにくく、虫にも強いと言います。

療養中の明治30（1897）年に53歳で他界します。

繊細でモダンな別荘建築

現存する建物は、大正末期に建て替えられたものですが、明治の土地家屋台帳と比較してみると、玄関や居室は復元されていると見られ、至るところに往時の工夫と意匠が見られます。

上がり框を使わず、木材の小口を軽やかに見せた玄関。そして前室の先の広い廊下の棚には、貴重な屋久杉の一枚板がさりげなく使われています。

玄関脇の書生室、台所につながる女中室と下男室、土蔵、廊下に面した電

明治期から使われている照明飾り。 玄関脇の書生室と文机。



庭から眺めた母屋は軽やかで自由な印象のある数寄屋風の建物。





庭に面した明るくモダンな印象の和室(二間続きの応接室兼主人室)。



①広縁の畳の外側に続く板張り。②上記の板張りをたどると脱衣所(手前)と浴室(奥)にたどり着きます。③浴室の円形シャワー。当時としては相当にモダンな設備だったのではないのでしょうか。④海に向かって下り勾配になった庭から、母屋を見上げた眺め。手入れされた庭木や石灯笼と屋敷のたたずまいが美しい。



話室など、当時の別荘での生活がよくわかります。

南の庭に面した続きの間は三方を縁側に囲まれ、格子の欄間らんまとガラス窓上部の障子から入る柔らかな光が印象的な、モダンな和室となっています。

この日、床の間に飾られていた掛軸は、日本画の巨匠、横山大観作でした。この庭石に腰掛けて庭にしつらえられた滝を描いたものだと思います。

続きの間の畳敷きの広縁にはガラス窓に沿って板張りがあります。この板張りを歩いて行くと玄関から畳の上を歩かず浴室にたどり着きます。曇りガラスの格子窓と板張りの広い

浴室は大変明るく、壁には作り付けの円形のシャワーがあります。天井には湯気を抜くための換気塔が付いており、海に面した大磯の生活を楽しむための浴室です。

海につながる。楽しむ庭

砂防林の松林へと続く広い芝生の庭は、眺めるだけでなく楽しむ庭のように見受けられます。散策に適した起伏があり、樹林、竹林、滝、果樹園などがあり目を飽きさせません。さらに現在では、砂丘の陰の潮風の当たりにくいところに、バラ園やマスカットの葡萄棚まで作られていました。

安田善次郎別邸

非公開

〔安田善次郎〕安田財閥の創設者。丁稚奉公から東京屈指の金融業者となり、晩年には東京大学安田講堂、日比谷公会堂などを寄付。■安田善次郎別邸 大磯町大磯4966 現在の母屋は大正期に建築された。■取材協力：安田不動産株式会社

安田善次郎翁の思いが息づく邸園

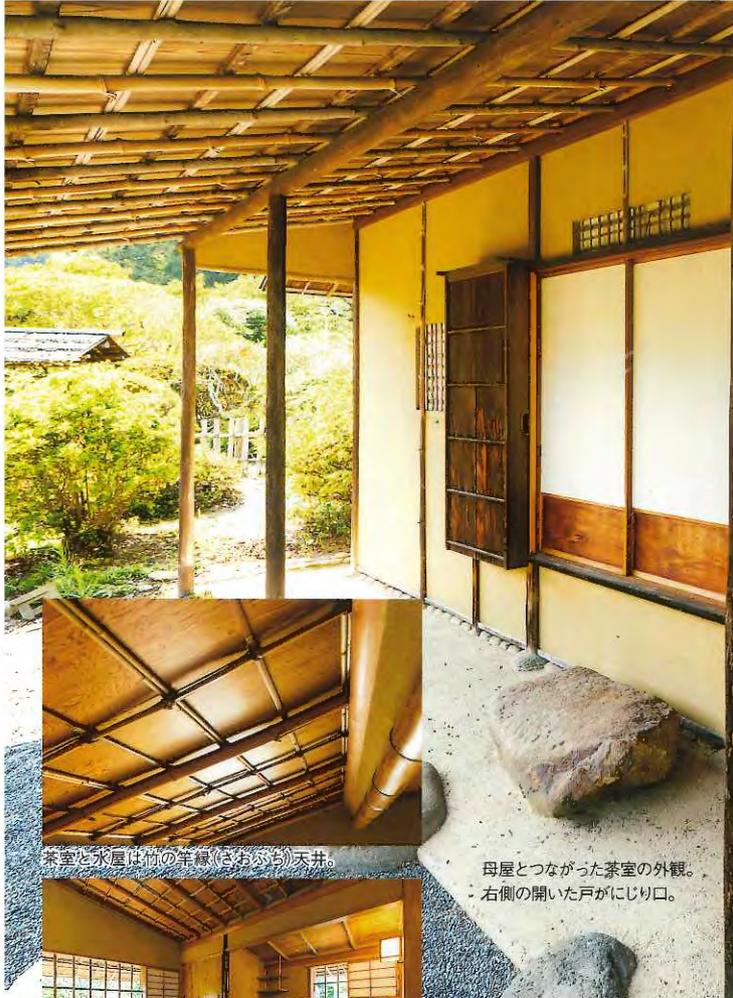
海を望む山を背負った高台に広大な敷地を持つ安田善次郎別邸。

明治初期、初めて大磯を訪れて以来この地をこよなく愛した善次郎翁は、明治末期にこの場所を浅野繪一郎氏（浅野財閥の創始者）より譲り受け別邸として移り住んだといえます。

庭に置かれた石碑には「おかまえは申さず来りたまえかし日かな遊ぶも客のまじまじ」と記され、町の人々の来訪

も歓迎していた様子が伺えます。

通常は非公開の施設ですが、春のお花見の会や秋のお月見の会などで年に数回だけ公開されており、その日は地元の方々をはじめ、お庭や茶室を楽しむ多くの来訪客で賑わいます。



茶室と水屋は竹の箆葺(さわがら)天井。

母屋とつながった茶室の外観。
右側の開いた戸がにじり口。



茶室の隣の水屋。



掛軸には善次郎翁の直筆による「よっぱらい」の絵。



亀に乗った善次郎翁の「致祥の像」。



樹木に守られるように建つ持仏堂(上)と経蔵(下)。

おちついた和風建築とくつろげる洋室

玄関のたたきは大磯砂利の洗い出しで、外観は漆喰と下見板張りの質素な仕上げとなっています。和風平屋建て、屋根は寄棟造棧瓦葺で、8畳間が3部屋あり、南側には畳敷の広縁が続く開放感ある和室となっています。広縁から水屋に繋がる茶室は増築されたものとみられますが、光の取り入れ方など大変心地良い空間を作りだしています。

一方、食堂と談話室の内装は洋風で、ソファーが造り付けられた出窓には当時のガラスを使ったモダンな窓が残されています。



①藤の間から桔梗の間へ二間続きの和室。②広縁の先に庭が映える芙蓉の間。③玄関の前室に正座した主人と玄関に立った客の目線が同じ高さに。④洋風内装の談話室。



さつききの庭にも裏の山にも石像が

広大な敷地の中には、茶室(P14)15の写真)のついた母屋があり、昭和になつて善次郎翁の冥福を祈るために建てられた持仏堂や、書物や仏像などが収められた経蔵があり、国の重要美術品である「嘉元三(1305)年」銘の石造十三重塔をはじめとした、数多くの石碑や石像が点在しています。

裏山にも石仏が自然の木々の間に置かれています。亀の上に乗った善次郎翁の像には「致祥(祥)を致す」自然と幸せになる」と書かれ、幸福な社会への願いを感じさせます。

当時の建物は関東大震災で倒壊し、

二代目善次郎翁によつて昭和初期に再建されました。大富豪の別邸というには素朴な印象ですが、晩年は「勤儉堂実行道人」とも名乗り、「勤儉貯蓄実行の骨髄は、自己の欲望を抑制し、己に克つことにある」と語つた善次郎翁の遺志に叶うものなのでしょう。

一方、多趣味な善次郎翁は、多くの書や絵の作品を残しています。この日見た茶室の床の間の掛軸には、お酒を楽しむひとりのよっぱらいがユーモラスに描かれており(P15)、善次郎翁の人となりを感じることができます。

この建物は、現在安田不動産の保養所として大切に管理されています。

ヨーロッパの本物に触れ、 自分のステージを上げるチャンス。 幸運の女神の前髪をつかもう。

第23回神奈川県商業従業者海外派遣団参加

横浜市中区（株）神田酒店 神田正道さん

幸運の女神の前髪

昨年4月までの10年間、コンビニエンスストアのオーナー店長として働いていました。ご多分にもれず慢性的な人手不足のため、シフトが埋まらない日には自分が店に出てやり

くりしていました。その結果、私自身で自由にできる時間がまったくなかったのです。フランチャイズ契約が満了し、元々の家業である酒類の業務店向け販売に戻したところでようやく時間ができました。できた時間で何をしようか考えた



▲「良い麦、良いホップ、良い水、そして丁寧な温度管理が良いビール造りの原料です」と語る、ブラウマイスターのトーマスさん。

▲ハイデルベルクの街並み。ライン川とネッカー川沿いの歴史ある城下町で、夜にはハイデルベルク城がライトアップされ美しい。

時、これからの10年のために「本物」に触れて、視野を広げたいと思いましたが、そんな時、商店会の会報で見ていた海外派遣団の話思い出して応募したのです。あの時の自分にとって、海外派遣団はいわゆる「幸運の女神の前髪」だったと思います。掴まなければこのチャンスは通り過ぎていったことでしょう。

本物に触れられるチャンス

訪問先はドイツとイタリアだとのこと。ドイツに行くならビールの醸造所をぜひ見たいと思いました。「酒を売る」者として本物の酒造りの現

場に触れたいとの希望がかなって、小規模ながら個人的なビール醸造会社である「クルトウアブラオエライ・ハイデルベルク」を視察できました。ハイデルベルクは古い城下町で、街全体が中世のようなたたずまいです。視察先の会社も300年前の石造りの建物を利用しており、しかもブリュワリーにホテルが付いていて、旨いビールを美味しい料理とともに出してくれるという、ビール好きにはたまらないところです。

ブラウマイスターのトーマスさんによれば、ここでは自然製法にこだわり、低温殺菌やる過を施さないこ

海外派遣事業のご紹介

国際的視野の広い中小企業青年従業員の育成を目的として、神奈川県との共催により昭和45年に「神奈川県中小企業技術者等海外派遣事業」を、また平成元年に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を開始し、継続実施しております。現在まで、中小企業技術者等派遣事業に933名、商業従業者派遣事業に221名の方々が派遣団員として参加され、欧州の先進国で貴重な視察研修を体験されています。応募要領等詳しくは、ホームページをご覧ください。



神田正道（かんだ・ただみち）

昭和57年生まれ。家業は、横浜市中区日ノ出町で4代80年続く酒屋。自身も無類の酒好き、それ以上に人間好き。横浜青年会議所オリエンテーション委員、会委員、日ノ出町青年会事業副部長。



「NIKKA 宮城峡蒸留所まで行って仕入れた希少酒「伊達」。うまいです!」

▲インタビューは、京急日ノ出町駅前の神田酒店・直営ワインバー「kanakoya」にて。旨い酒と料理、そしておいしい話題があふれる、雰囲気ある店内。

株式会社神田酒店

横浜市中区日ノ出町で80年に渡り営業してきた「神田酒店」。4代目の正道さんになっても、地域に必要とされる酒屋であることの姿勢は変わりません。ワイン1本からでも、飲食店の嗜好と利益率を考えたコーディネーターのご相談でも、感謝の気持ちでお応えします。



▲京浜急行「日ノ出町」駅の駅前風景。みなとみらいにも、伊勢佐木町などの盛り場にも近く、近年はアートの街としても人気が高まっています。

とが特色の一つだそうです。原料の吟味工程から試飲まで、じっくりと拝見でき、海外視察団がただの物見遊山では無いことを実感しました。

多種多様な団員たち

参加者が多彩なことも海外派遣団ならではの事です。おかげで視察する先々で他の団員が関連情報を教えてくれます。たとえば馴染みが薄いと思っていた「量り売りの店」も、ある団員によれば日本でも食のセレクトショップとして増えているようです。そういえば私が子供の頃、酒屋の店頭ではお酒や味噌など量り売

りしていました。売り方も原点到りしてきているのかもしれませんが。こういうことのひとつが今後の経営方針を考える上で参考になります。

帰国後、ソムリエに挑戦

当社の仕事は業務店向けの酒類販売ですから、商品を売るだけでなく、コーディネーターや提案もできたほうが喜ばれますよね。視察先でそうした思いを強くして、帰国後まずはソムリエの資格取得に挑戦中です。

また酒は人間同士のコミュニケーションツールだと思っています。商売も地域の活性化も、そこに関わる

人間同士が面白いと感じることが不可欠です。その中で自分の商売だけでなく、所属する青年会議所や我が地元、日ノ出町の青年会などで地域にも貢献したいと思っています。

もし海外派遣団への参加を迷っている人がいたら「迷っていないで、行ってみてから考えなよ」と伝えたいですね。(談)



【会社情報】株式会社神田酒店
代表取締役 神田正
横浜市中区日ノ出町1-33
TEL 045-231-7691(代)
http://www.kanakoya.com/
kandasaketen/
直営店「カナコヤ」前にて。社長(右)と神田酒店の看板とともに。

「2018かながわ民俗芸能祭」のご案内

「2018かながわ民俗芸能祭(無料)」を次の通り開催いたします。人々の絆や地域のつながりによって育まれ、受け継がれてきた郷土かながわの民俗芸能をご観賞ください。

- 会場 横浜銀行本店ビル1階「はまぎんホール ヴィアマール」
- 募集人数 400名 申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。
- 開催日 12月2日(日)
- 時間 開演13時00分(12時30分開場 16時00分終演予定)
- 募集期限 11月2日(金)(当日消印有効)
- 出演

芸能	所在地	出演団体
港北神代神楽	横浜市港北区	港北神代神楽佐相社中
双盤念仏	厚木市	法雲寺酒井双盤講
小田原囃子	小田原市	小田原囃子多古保存会
相模人形芝居	平塚市	相模人形芝居前鳥座
相模のささら踊り	厚木市	愛甲ささら踊り盆唄保存会

- 主催 神奈川県民俗芸能保存協会
- 共催 神奈川県、公益財団法人はまぎん産業文化振興財団
- 協賛 横浜銀行
- 申込方法 往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数(1名または2名参加、最大2名)・返信用宛先を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1「はまぎん財団民俗芸能祭係」までお申し込みください。※未就学児の入場はご遠慮ください。

はがきに掲載された個人情報は、催事のお申し込みのみに使用し、厳正に取り扱います。

- お問い合わせ 公益財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局(横浜銀行本店ビル13階内) 電話045-225-2171、平日9時~17時)

- 交通アクセス JR線・横浜市営地下鉄線桜木町駅下車 動く歩道利用徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅下車 徒歩7分

※駐車場のご用意がございませんので、公共交通機関等をご利用ください。

編集後記

▼今回のマイウェイは、明治150年に因み、当時の政治家や財界人が大磯にぞぞと別荘・邸宅を建てた中で、現存する「大隈重信別邸」「陸奥宗光別邸」「財界人の「安田善次郎別邸」を紹介しています。▼大隈邸の大広間「富士の間」から、当時は木立の向こうに海岸が見渡せたようです。明治時代の総理大臣が何人もこの地に集まったのは、中央では天下国家を語る論客たちも大磯の別邸では、大海原の向こうに目を遣りゆたりとした面持ちで、日本の将来を夜更けまで語り合っていたからではないでしょうか。▼本誌で取材した大隈邸、陸奥邸を含む地域が「明治150年」関連施策の一環で、今秋一部公開予定です。少し足を伸ばせば、昨年4月から公開している吉田茂邸もあり、歴史的・文化的遺産を巡ることもできます。明治の邸園文化にあれてみてはいかがでしょうか。▼最後に、監修の山口明宏氏、大倉祥子氏並びに、取材協力をいただきました古河電気工業株式会社、安田不動産株式会社他、関係者の皆さま方に厚くお礼を申し上げます。

公益財団法人はまぎん産業文化振興財団 事務局長 田村正志

2018はまぎん財団ふれあいコンサートのご案内

12月から来年1月までに開催するコンサートにつきまして、次の通り、ご案内いたします。なお、来年度4月以降につきましても引き続き開催を予定しております。詳細は、あらためてホームページ、インフォメーション等でお知らせいたします。

ヴィアマールコンサート

《予約制・無料》

- 会場 横浜銀行本店ビル1階「はまぎんホール ヴィアマール」
- 募集人数 400名 申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。
- 開催日 下記のとおり
- 時間 14時00分~15時30分(1時間30分)
- 募集期限 11月9日(金)(当日消印有効)：12月10日(月)開催分
12月14日(金)(当日消印有効)：平成31年1月15日(火)開催分
- 出演

開催日	コンサート名	出演者	曲目
12/10 (月)	ピアノと弦奏の名曲	Quintet Musai (クインテット・ムーサイ) 宮崎 真利子(ピアノ)、 中村 ゆかり(ヴァイオリン)、 八代 瑞希(チェロ)、 西村 友里亜(ヴィオラ)、 森田 麻友美(コントラバス)	・ピアノ三重奏曲第1番二短調 作品49：メンデルスゾーン ・ピアノ五重奏曲『鱗』イ長調 D.667：シューベルト
平成31年 1/15(火)	ジャズ 谷口英治 NEWカルテット	谷口英治 NEWカルテット 田窪寛之(ピアノ)、 楠井五月(ベース)、 谷口英治(クラリネット)、 岡田朋之(ドラムス)	・A列車で行こう：ピリー・ストレイホーン ・メモリーズ・オブ・ユー：ユービー・ブレイク ・鈴懸の径：灰田有紀彦(佐伯孝夫作詞) ・シング・シング・シング：ルイ・プリマ 他

- 協賛 横浜銀行 ●協力 オフィスKOM

※各コンサートとも、曲目を変更する場合がありますので、ご了承ください。

- 申込方法 コンサート毎に往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・コンサート開催日・コンサート名・1名または2名参加(最大2名)を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1「はまぎん財団コンサート係」までお申し込みください。はがきに掲載された個人情報は、催事のお申し込みのみに使用し、厳正に取り扱います。

ご注意：お申込みはがきは、コンサート毎にお願いいたします。
また、コンサート開催日・コンサート名の記載がないおはがきは無効とさせていただきます。

●次号予告(平成三十年十二月下旬刊行)
「時にはこんな旅の宿」(仮題)